

土壤中の可給態リン酸が 50mg/100g より多いりんご樹園地では、一時的にリン酸施肥を中断できる

果樹試験場

1 技術の要約

土壤中の可給態リン酸が 50mg/100g より多いりんご樹園地では、3～6年間リン酸肥料を無施肥としても樹体生育、果実収量および樹体のリン吸収量に影響がないことから、リン酸施肥を一時的に中断できます。

2 技術の内容

全国的に樹園地土壤にリン酸の蓄積が進んでおり、県下りんご園土壤の可給態リン酸濃度は、平均値で 100mg/100g を超えるまでに増加しています。

今回、土壤中の可給態リン酸濃度が 50mg/100g 以上あれば、3～6年リン酸施肥を中断しても、果実収量や樹の生育は劣らず、葉のリン酸濃度も低下しないことを明らかにしました。

土壤の可給態リン酸濃度は、短期間では低下しにくいと思われませんが、リン酸施肥の再開は、3年に1回程度土壤診断を行い、土壤中の可給態リン酸濃度から判断します。

リン酸施肥中断中は、窒素とカリを単肥で施用します。リン酸を無施肥とすることで肥料コストは、慣行の複合肥料施肥と比べておよそ半減できます。

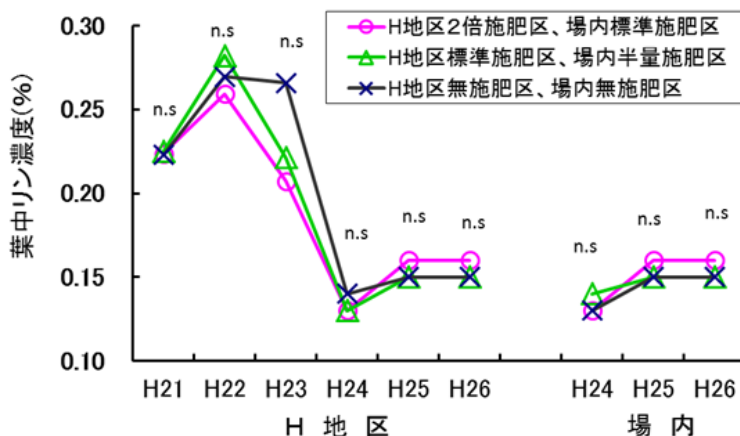


図1 リン酸施肥量の違いがりんご樹葉のリン濃度に及ぼす影響

供試品種及び台木
H地区: シナゴールド/M.9/マルバ
場内: ふじ/M.9

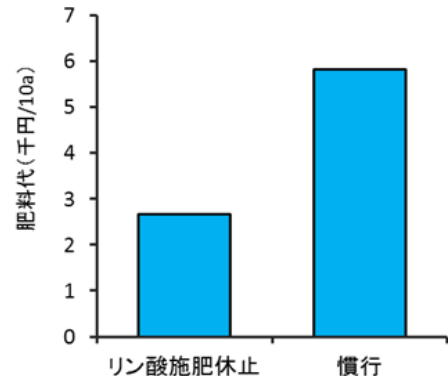


図2 肥料コストの試算

リン酸施肥休止は窒素とカリを単肥で施用